

目指す学校像	学ぶ喜びのある学校 生徒の夢をはぐくむ学校 生き生きと活動する学校 保護者・地域とともに活動し信頼される学校
--------	--

重点目標	1 生徒・保護者の期待に応える質の高い教育活動を展開し、生徒の学力と体力の向上に努める 2 生徒が安心して学ぶことのできる誰一人取り残さない教育環境づくりに努める 3 保護者・地域とともに活動し信頼される学校づくりに努める 4 質の高い教育活動を支える教職員の資質能力向上に努める
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価		
年 度 目 標						年 度 評 価		実施日 令和 6年 2月 15日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等		
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、数学、理科、社会と全国、市平均と比べ良好な結果である。 ○令和4年度の全国学力・学習状況調査において、「国語・数学・理科の勉強は好きですか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、県平均を大きく上回った。 ○「STEAMS TIME」でPBLとプログラミング的思考を育む内容を中心に、探究的な学びを行う単元を創り出し、実施している。 (課題) ○学力の向上に対して、保護者、地域共に特に関心が高く、学力と体力のさらなる向上が課題である。 ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、特に国語の「書くこと」等について全国平均をやや下回っていることから「主体的・対話的で深い学び」への取組が必要である。 ○「STEAMS TIME」の充実による探究的な学び、協働的な学びの実施。	・ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」や、個別最適な学びの実現 ・「STEAMS TIME」の実践による、より探究的な学び、協働的な学びの実現	①「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」を実現するためにICTを活用した公開授業を行う。 ②「スタディサプリ」を含めたICTを活用する授業を各単元で行う。	①全ての教員がICTを活用した公開授業を1回以上行う。 ②「スタディサプリ」を含めたICTを活用する授業を各単元で1回以上行う。	①全教員がICTを活用した公開授業を1回以上行った。 ②「スタディサプリ」を活用する授業を各単元で1回以上行った。	○ICTの使用を目的にするのではなく、あくまでも手段として活用していくための研究が引き続き課題となる。 ○「スタディサプリ」のさらなる活用を検討していく必要がある。	B	○「STEAMS TIME」でPBLとプログラミング的思考を育む内容を中心に、探究的な学びを行う単元を創り出し、実施することができたが、内容については今後検討し、さらなる充実を図る必要がある。	・ICTを使った授業は多様な意見を交換できる等とてもよい取組であり、主体的・対話的で深い学びにつながると考える。今後更に活用の幅が広がることを期待する。 ・生徒の学習の理解度に応じた学びの場を提供することも考える時期にきているのではないかと。 ・グローバル化を背景に主体的に課題を発見し、納得解を得ることができる力を子どもに身に付けさせるため、「STEAMS TIME」をはじめとする探究的な学び、協働的な学びの充実を努めていただきたい。	
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において、「先生はあなたのよいところを認めてくれる」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、県平均を大きく上回った。 ○昨年度、スポーツ振興センターに申請した医療機関の受診は59件であった。 (課題) ○コロナ禍によるストレスや生活の変化が生徒の心身に与える影響が大きいことから、今後も、生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制、仕組みづくりが課題である。 ○個別最適な学びをより充実させるための環境整備が課題である。 ○教職員による施設設備の安全点検を確実に行うだけでなく、生徒が自ら危険を予測したり、回避したりする力をはぐくむことが課題である。	・いじめや不登校に係る事案の未然防止、早期発見・早期支援、再発防止のための組織的な体制づくり ・安全な生活の実現に主体的に取り組む生徒の育成	①個に応じた対応をするための環境の充実化を図る。 ②情報端末を活用して生徒向けアンケートや面談等の記録を蓄積し、生徒一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。	①学校自己評価に係る教職員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合を90%以上とする。 ②学校自己評価に係る保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合を90%以上とする。	①教職員アンケートで肯定的な回答の割合が90%以上となった。 ②保護者アンケートで肯定的な回答の割合が90%以上となった。	○肯定的な回答を多く頂いたが、満足することなく、常にアンテナを高くし、早期発見・早期支援に努め、組織的に対応していく必要がある。 ○アンケート結果の記録の蓄積について検討していく必要がある。 ○SSRの設置により、個別最適な学びに向けた学習環境の充実を図ることができた。	A	○校内でのケガについては、依然として多いので、未然に防ぐための取組が今後の課題である。 ○全生徒が意識を高められるような取組の検討が必要である。	・これからもアンテナを高くし、生徒とのコミュニケーションを密にすることで、生徒の些細な変化に気づいてほしい。また、生徒、保護者に対して迅速に対応して頂いているので、引き続きお願いしたい。 ・SSRの活用をはじめ、個別最適な学びに向けた学習環境のさらなる充実を図って頂きたい。 ・生徒自身が安全について考えられるような取組に期待したい。	
3	(現状) ○昨年度、本校学校運営協議会を立ち上げ、生徒を地域全体で育てていくことを共有し、コミュニティ・スクールの実施がスタートしたところである。 (課題) ○今年度は、地域ぐるみで本校生徒をはぐくむ体制をつくるため、本校教育活動の質的向上を図るためのPDCAサイクルが機能するように学校運営協議会を運営していく。 ○学校運営協議会をはじめとする地域住民等からの意見を積極的に取り入れ、本校教育活動への地域住民等の参画意識を高める。	・学校運営協議会との熟議を通じた地域住民、保護者等との信頼関係の深化 ・「求める生徒像・学校像・教師像」の具現化に向けた学校評価を基盤とする学校経営の改善・充実	①学校運営協議会を計画的に実施する。 ②教育活動を積極的に公開する。 ③生徒の活動や学校の様子等を、家庭、地域に発信できるようにHPを充実させる。	①学校運営協議会を年3回設定する。 ②学校運営協議会委員、保護者、地域に教育活動を公開する場を年3回以上設定する。 ③HPを毎月更新する。	①年3回実施した。 ②体育祭、合唱祭、公開授業、卒業式と、4回公開した。 ③本校HPを月1回以上更新した。	○昨年度よりも教育活動を公開する場を増やすことができた。授業参観を設定することができた。 ○地域諸団体の行事に生徒ボランティアを派遣することで、本校教育活動への理解を深めて頂けた。 ○HPの更新は月1回以上更新できたが、保護者に向けたスクリーンでの情報発信を充実させる。	A	○「求める生徒像・学校像・教師像」の具現化に向け、学校評価を再構築したが、さらに生徒が充実感、肯定感を高く持てる教育活動を目指したい。	・地域諸団体の行事に生徒をボランティアで派遣したことは、桜木中の教育成果を知ってもらう上でも効果があった。引き続き、拡充を図っていただきたい。 ・桜木中学校の「求める生徒像・学校像・教師像」の具現化に向けてこれからも生徒が充実感、自己肯定感を高められるような教育活動を行ってほしい。	
4	(現状) ○昨年度から「お互いのよさを認め合う生徒の育成 ～教育活動全体を通じた人権教育の実践～」という研究主題で研究を進めている。 ○新たな学びのスタイルの中心となる、情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、エヴァンジェリストが中心となり研修を重ねている。 (課題) ○相手を思いやり、お互いのよさを認め合う力の育成が課題である。 ○ICTの活用について、教員間で取組の差がみられる。	・教育活動全体とおとした計画・組織的な人権教育の在り方の研究による人権意識の高揚 ・「教える」から「学習者が主体的に学ぶ」授業への転換を目指したICT活用能力の向上	①学校課題研修主任を中心に組織的に研修会を行い、人権教育の視点を意識した授業づくりに努める。 ②ICTを活用した実践を「桜木中学校ICT活用プラットフォーム」で共有する。	①学期に2回以上、人権教育の視点を意識した授業に関する研修を行う。 ②「桜木中学校ICT活用プラットフォーム」を、学期に1回以上活用する。	①学期に2回以上研修を行った。さらに教員同士でお互いに授業を参観する機会を設けた ②ICTを活用した実践を共有した。	○人権教育の視点を意識することも踏まえつつ、ICTを活用した授業の実践を積み重ねていくことに課題がある。ICTを使うことを目的にするのではなく、あくまでも手段として活用していくための研究が引き続き課題となる。	B	○人権教育の視点を踏まえた授業は今後も積極的に行ってほしい。ICTを含め、先生方の授業力向上が、生徒の学力と体力の向上につながると考える。働き方改革を尊重しつつ、今後も引き続き期待しているところである。		